

きすげ

No.41

令和5年3月31日

浅間山自然保護会



ご挨拶

新型コロナが発生してから3年経過しました。昨年末より感染者は減少傾向にあるものの、いつ収束するのか不明な中、ご心痛のこととお察し申し上げます。

当会では、昨年度より一部イベントを自粛した他、日常の整備作業はほぼ平常に戻しました。

昨年6月には、東京都のご尽力で南麓の広場に、立派なトイレを新設していただき利用者に喜ばれています。北麓には当会の倉庫が新設され、大きくなり便利に使用しています。浅間山自然保護会創立40周年記念事業の一環として、西武・武蔵野パートナーズに富士眺望の案内板を製作していただきました。

原図は当会メンバーの永井さんによるものです。

この3年間、コロナ感染に伴い整備が行き届きませんでした。また昨今の温暖化が原因なのか、雑草の異常繁茂と樹木の下枝の伸長で林床が照度不足となり、植物の生育環境が変化しているように思われ、整備が急がれます。

浅間山自然保護会 会長 山田 義夫

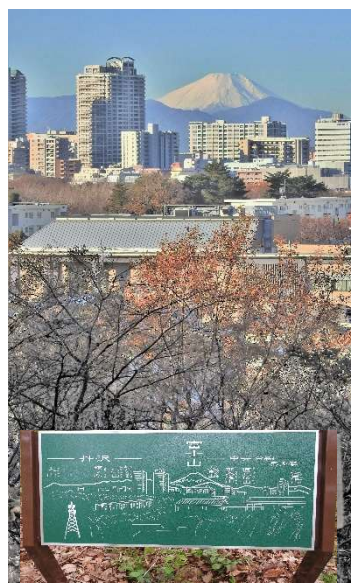
富士眺望の案内板が設置されました

平成17年4月、浅間山からの素晴らしい富士山の眺望が国土交通省主催の関東富士見百景に、多くの候補地の中から選出されました。

私たちも来園者との会話から「山の名前がわかる」ともっと楽しくなる」との声も聞かれ検討を始めたところ、浅間山自然保護会メンバーの永井佳久さんが廃材の板に絵を描き山の名称まで書き入れた案内板を作成し設置してくれました。

その素朴で温かい絵と文字はとても好評でした。残念なことにこの看板は持ち去られてしまいました。永井さんはすぐに2枚目を作り設置してくれました。板に直筆の絵はすぐに風化してしまい、折角の絵や文字が台無しです。

そこで西武・武蔵野パートナーズにお願いして令和4年3月に金属製の案内板を作ってもらいました。



(手書きの案内板)

府中市環境保全活動センターの紹介

環境保全活動センター検討調整会委員長 室 英治

府中市は緑豊かな自然に恵まれた多摩川の流域にあり、また、弥生時代の起源と言われる大國魂神社が市の中心部にあります。市内至る所に遊歩道が走り、市内には都立の武蔵台公園と浅間山公園をはじめとした公園緑地が多数ありきわめて緑豊かなところになっています。この自然豊かな府中市においては、府中市環境基本条例に基づいた数次にわたる環境基本計画(年次9年間、平成26年度から令和4年度)のもとで、環境関連課題として、自然環境、生活環境、都市文化環境、低炭素・循環型社会の構築、環境パートナーシップの構築等を取り上げ、課題対応のために以下の基本方針を設定して活動しています。

1. 水と緑が豊かにあるまちを目指します。
2. 安全・安心に健康で暮らせるまちを目指します。
3. 文化的で快適なまちを目指します。
4. 低炭素・循環型のまちを目指します。
5. 環境パートナーシップの育つまちを目指します。

5つの基本方針のもとで環境基本計画の以下の3つの重点プロジェクトを取り上げ市民と行政が一体となった環境活動を展開しており、活動結果は年度報告書「府中の環境」で公表されています。

1. 府中市の歴史と景観を彩る「自然」と共に歩む環境づくりプロジェクト
2. 安全・安心な地球、そして府中市を守り育てる環境づくりプロジェクト
3. 一人ひとりがともに考え行動する環境パートナーシップの強化プロジェクト

環境保全活動をしている市民主体の団体としては、浅間山自然保護会、府中かんきょう市民

の会、武蔵台緑地保全ボランティア、多摩川の自然に親しむ会、環境塾ネット、ひな草の会等があり、環境保全や教育活動を展開しています。市内唯一の山のある浅間山公園については、その保全活動に長年携わってきた浅間山自然保護会が昨年創立40周年を迎え、市民、近隣学校、関連組織と連携した活動を精力的に続けています。

府中市としては、平成23年12月に環境保全活動センターを府中駅北第2庁舎に設立して、今年で13年目を迎えました。現在は本庁東庁舎7階にあり、活動を展開していますが、新庁舎完成の暁には情報化社会におけるメタバースを基にした21世紀型の活動を展開する予定となっています。府中市は環境関連課題として自然環境、生活環境、都市文化環境、低炭素・循環型社会の構築、環境パートナーシップの構築を取り上げ、環境配慮活動が十分に浸透するように、環境保全活動センターを拠点とした環境学習と市民の環境保全活動を継続的に支援・展開しています。同センターは、市民(民間団体)、市内の事業者、行政(環境政策課を中心とした関連行政)との連携組織で、環境政策課内にあります。同センターは市民サポーターと検討調整会で構成され、検討調整会は府中市の環境課題解決のための各種部会で構成されています。部会としては、水と緑のネットワーク部会(樹木の調査)、環境学習部会(府中かんきょう塾等の開催)広報活動部会(センターホームページの作成、センターだよりの発行)があり、センター全体としては毎年の桜まつり、環境まつり、打ち水日和、エコクッキング等の企画や各種イベントの支援をしています。

令和4年度 浅間山公園維持管理について

都立武蔵野公園 所長 飯田 孝洋

1 ナラ枯れ・大径木の伐採等処理について

浅間山公園のナラ枯れ・大径木等の伐採処理を実施した。ナラ枯れ処理は全枯れかつ、二次災害防止のため園路沿い、住宅地沿い、道路沿いで倒木による被害を最小限にすることを目的に伐採処理を実施。大径木処理は富士見百景より山の眺望を見渡せるよう強剪定を実施した。

作業着手にあたり、東京農工大学様のナラ枯れ調査結果を踏まえ、4月から対象箇所の調査点検を実施し対象木を選定して、目印をつけ作業の段取りに着手した。

浅間山公園には、高所作業車の搬入空間は少なく、人力による作業がほとんどであり、伐木等の業務（チェーンソー）、ロープを使っての高所作業に慣れた作業員、伐木を人力運搬するための作業員が多数いる協力会社へ依頼することに決定した。高所作業車での作業も併せて実施した。

令和4年5月から作業を開始し、無事故・無災害で令和5年3月作業を終えることができた。ナラ枯れは約120本伐採処理し、大径木処理は約20本処理し、ナラ枯れ被害抑制、景観の向上、倒木による被害を最小限の範囲とすることができた。



ロープを使っての高所作業（大径木伐採）



ナラ枯れ伐採処理作業



ロープを使っての高所作業（枝打ち）

2 階段土砂流出、ぬかるみ対策改修工事について

浅間山公園で階段踏面の土砂流出により、踏面のへこみが各所で見受けられる。

また、堂山北側すその道は雨後、ぬかるみで歩くことに支障がある。この二点の課題を解消することを目的に作業計画を作成し作業に着手した。

階段踏面は雨により土砂流出があり、階段の登り降りに支障がある。改善対策として階段端部を延長し、階段端部の水みちを無くすことにより、雨水による洗掘を防止する。階段踏面3段を真砂土で固める作業を実施した。2月現在土砂流出はなく真砂土舗装は健全な状態である。

ぬかるみ対策として、飛び石風真砂土塗装を4個設置した。土砂流出により飛び石風

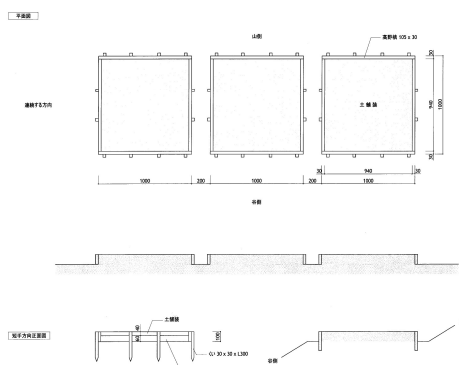
真砂土舗装が埋まること、水みちを考慮して園路より10cm上げている。段差については注意喚起看板を設置している。段差、飛び石風土系舗装のサイズ感に課題もあるが、雨後でも歩くことに支障はなく改善は成し遂げることができた。

階段踏面真砂土並びに園路ぬかるみ対策は優先順位を決め、継続して改善をしていきます。浅間山自然保護会様と改修場所、作業方法等は協議し進めて参ります。

東京都西部公園緑地事務所様が浅間広場に新築トイレ、飛地公園の倉庫を整備していただき感謝しております。そこで私たち指定管理者は旧トイレの女子和式便器1箇所を洋式に変更し、パーテーションの改装を3月末迄に実施する予定です。旧トイレも快適なトイレを目指します。



階段踏面土系舗装作業



飛び石風土系舗装施工図



飛び石風土系舗装作業

第 27 回 キスゲフェスティバル

4 月 30 日 5 月 1 ・ 7 ・ 8 日

コロナ禍の中、東京オリンピック・パラリンピックが 1 年遅れで開催され、制約が緩和され大きなイベント等も開催されるようになった。浅間山公園でもキスゲフェスティバルを密集、密着、密接を避け、ワークショップや植物観察会を取りやめ、規模を縮小して三年振りに開催しました。



(花の写真展示前)

花々の開花状況は、フェスティバル前半はキンラン、ギンラン、ササバギンランが見ごろを迎え喜ばれた反面、ムサシノキスゲは開花が遅れ、花数も少なく残念そうでした。

4 月 30 日

29 日からの大型連休前半は、コロナ感染に伴う規制が緩和され、旅行や帰省が多く来園者は少なかったが、花や野鳥の写真展示前は人が途切れることはなかった。メイン会場での案内のほか、巡回を兼ねピンポイントで植物のガイドや園内の案内を行い喜ばれた。特に前山西斜面のキンランの群生に魅せられていました。



(見事なキンラン)

5 月 1 日

午後から雨の天気予報でしたがオープン。今にも降りそうな空模様の中、オープンを待っている来園者もいました。

5 月 7 日に予定している東京私立初等学校協会理科研究部主催の観察会の実施にリーダーの先生が 10 名お見えになり、約 2 時間見どころを案内しました。案内が終わった頃、まもなく雨が降る予報に変わりやむなくフェスティバルを中止しました。

5 月 7 日

朝の曇り空も 11 時頃には青空に変わり絶好の行楽日和になり、東京私立小学校の生徒と父兄の約 600 人が 30 人ほどの小グループに分れ楽しそうに草花を観察していました。



(観察会風景)

14 時、15 時の 2 回、メイン会場で希望者を募り、人気のギンランの見られる場所を案内。その清楚で可憐な姿に感動していました。今日一日は賑やかでした。

5 月 8 日

最終日にはしては来園者がやや少ないようでした。昨日同様メイン会場で希望者を募り 11 時、13 時の 2 回案内しました。

今日はムサシノキスゲを見たい人が多くムサシノキスゲを中心に案内しました。少人数でゆっくり話しが聞けてよかったと喜ばれました。

コロナ禍の来園者

令和2年1月16日、日本で初めてコロナ感染者が確認されて以来、急激に感染者は日本全国に広がり、緊急事態宣言が発出され、オリンピック・パラリンピックは1年延期、スポーツや観劇、飲食店の営業時間の短縮、不要不急の外出、旅行や帰省などが制約されました。令和3年度末頃からワクチン接種が行きわたり、大きな制約は徐々に解除されたものの、鬱積したストレスの発散場所を近くの公園に求めたようです。

令和4年のゴールデンウィークの来園者の様子をレポートしてみました。

【あずまや広場でくつろぐ人たち】



園内のベンチは全て使われ、眺めのよい場所や木陰にレジャーシートを敷いてお弁当を食べている家族の雰囲気が素晴らしく、私たちもその姿を遠くから眺めホッコリしました。

【植物観察の小グループが目立った】



コロナ感染拡大を意識してか、ご婦人だけの小グループが多く見られました。メモを片手にリーダーの解説に聞き入っている人たち、散策を

楽しんでいる人たちと様々でした。

【昆虫採集や草花を觀賞する若い家族】



コロナ禍でストレスをため込んだ子供の心を癒そうと浅間山にきた若い家族が多かったようです。親子で虫をおいかけてたり、きれいに咲いた花を間近で鑑賞している子供たちの楽しそうな顔が印象的でした。

【植物観察、ウォーキングの団体】

毎年、キスゲフェスティバル開催中に訪れていた三団体が三年振りに来園、山は賑わい、皆さん楽しそうでした。



浅間山の現状

ムサシノキスゲの危機

ムサシノキスゲは、唯一浅間山だけに自生している希少種です。東京都の絶滅危惧種Ⅱ類に指定されている。

そのムサシノキスゲが過去2回のピンチがありました。

「1回目」

戦時中日本陸軍に、戦後は米軍の占領下になり、その後日本に返還されたものの、山は荒れ放題、ムサシノキスゲをはじめ多くの山野草が姿を消した。昭和45年都立浅間山公園として開園、昭和57年浅間山自然保護会が結成され、公園管理者と共同で整備を開始して、昔の姿に戻し、ムサシノキスゲをはじめ多くの山野草が復活しました。

「2回目」

平成18年4月堂山北斜面のムサシノキスゲの葉が枯れているのを発見。不審に思い観察を続けたが、枯れた株は数株だけで伝染している様子はなかった。株周辺に石灰を散布したが効果はみとめられなかった。

平成19年3月中旬頃から観察。枯れた株はやや増えたが、見つけ次第根元に石灰を散布したものの効果はみられなかった。

平成20年4月上旬、枯れた株が多く異常であると判断。樹木医、新井幸次郎氏に調査を依頼。菌核病であると診断された。農作物がよく被害を受けるので、周辺の畑から菌糸が飛び伝播したと考えられる。防除には薬剤散布が考えられるが、自然界では他の有用な菌類に悪影響を及ぼすので薦められない。従って罹病した株を早期発見して抜き取りました。幸いにして大量には発生しておらず、場所も堂山北斜面だけであった。抜き取った数は以下の通りである。

平成20年50株、21年30数株、22年10数株と年々減少し、平成30年3株を最後に発生していないが、観察は継続しなければならない。



菌核病に罹病したキスゲ
菌核が菌糸となり風に飛ばされ感染が広がる。従って葉が枯れているのを発見したら直ちに抜き取り焼却する。

「最近の状況」

数年前から花付きが悪くなり、最近は株数も少なくなっているのが心配。何が原因なのか不明。ススキなどの大型雑草やクズなどのつる草の繁茂、樹木の下枝の伸長で林床の照度不足も考えられるが、いずれにせよ、原因を追究して対策が必要とおもわれる。当面は大型雑草の駆除、枝打ちを行い、種子の取り蒔きを行ってみたい。



平成11年撮影
堂山北斜面の見事な群落。残念ながら現在はこのような群落は見られません。

絶滅が危惧されるもの

フデリンドウ

名木イヌザクラ下に 20 数株のコロニーを形成していたが、現在数株しかなく絶滅が危惧されている。乾燥した明るい草地を好む種だけに、生育環境の改善が必要。

ネコノメソウ

府中市に三ヶ所の湧水があり、その一つがおみたらし神社で、小さな祠の下からにじみ出ている程度のじめじめした場所に自生している貴重種。数は少なくなっている。

ジュウニヒトエ

やや乾いた明るい丘陵地の林の中や林縁に生育している。13 都道府県でレッドデータブックに指定されている希少種。浅間山では一昨年中山で見たのが最後で絶滅したと思われる。

ヤブレガサ

20 年ほど前、前山西斜面上部で草刈りをしていて発見。府中市では浅間山だけに自生していると思われる貴重種。大切に保護した結果、数を増やしたものの保護は必要。

ヤマグリ

浅間山では成木が 3 株しかない貴重種。駐輪場で幼木が 5 株みられ、2 株はそろそろ実をつけるほど成長している。将来、子供たちがカゴ一杯になるほど栗をひろい集めた嬉しそうな顔を見るのが楽しみである。

ウメガサソウ

尾根道際にあった 1 株を大切に保護していたのが絶えてしまった。その後堂山男坂際で発見。一時 20 株ほどのコロニーを形成していたが現在は衰退。絶滅が危惧されている。

浅間山には数多くの貴重種があり
その保護は永遠の課題

増殖作戦

ヤマツツジ

「1 回目」平成 25 年 7 月 11 個 挿し木
平成 28 年 4 月 4 株移植 全て活着
平成 31 年 4 月 開花

「2 回目」令和 3 年 10 個 挿し木
令和 6 年 移植 予定

1 回目より日当たりの良い場所に移植を検討している。草本類と異なり結果が出るまで時間がかかり根気よく取り組む。



ハンショウヅル

平成 20 年 5 月前山西斜面下部で花を 1 個つけたハンショウヅルが地を這っているのを発見。早速、保護柵を設置、ツルを誘引して保護。

翌年花をたくさんつ

けた。念のため付近

を探索したところ若

い株を発見。保護柵

下に移植した。その

後、前山北斜面でも

見つかり保護柵を設置して保護。現在浅間山の人気種の一つになった。



ウマノスズクサ

ジャコウアゲハの食草で知られているウマノスズクサが浅間山に自生しています。ジャコウアゲハの幼虫の食欲は旺盛で、ウマノスズクサが大きく育つ暇がありません。芽を出しては食べられ、再度芽を出しては食べられ、これを年に 3~4 回繰り返すものの絶対数は足りなく、ジャコウアゲハを数多く飛ばすには、ウマノスズクサを増やさなくてはなりません。どうすれば増やせるか検討中。将来、ジャコウアゲハが飛び交う公園で子供たちの喜ぶ顔を見たい。

浅間山と私

「ミーンミン、ミン。」

今日も浅間山のセミたちは元気いっぱいです。私の家は、この浅間山のすぐ近くにありす。四季折々をまっ先に知らせてくれる浅間山。ここに越して来てからの私は、四季の移り変わりにとても敏感になりました。

春、生まれたばかりのやわらかい芽が吹き出す頃、山は若草色におおわれます。それは日に日にその色を変えて、新緑へそして濃い緑へと変わっていきます。夏、緑の小道に入ると少しひんやりとした風がこちち良く感じます。秋、黄色や紅に染まった山も美しいです。この葉っぱを集めたりどんぐりや松ぼっくりを夢中で集めた幼い頃の私、いい思い出です。落ち葉のじゅうたんの上を走ったり歩いたりするのも楽しみでした。

春には木の芽が顔を出し、夏には緑の葉をきらきらと輝やかせ、秋になると葉を落とす。

冬にはすっかりはだかに見える山の木々。でも実は寒さにじっと耐え春の準備をしていることを私は知っています。まるで「人生」みたいだと思いました。毎年このくり返しの中私達の心をなぐさめてくれます。時にはいやしてくれす。「浅間山は生きている。」そう思ひます。

この浅間山のある府中で私は成長しています。どちらかという人見知りでおとなしかった保育園時代の私、だんだん友達も増えて活発になってきた小学生の私。考えてみれば12年の足跡が私にはあります。

若松小6年 草野陽葵

楽しかったことも、悲しかったことも多くはここ、府中で作られたものです。

幼い頃の写真をながめていました。

「かわいい。」

浅間山に登り、富士山が見える浅間山のお気に入りスポットでとった写真です。どの写真も思い出に残るものですが浅間山での写真が多いことに改めて驚きました。浅間山に見守られながら成長したんだとしみじみ思ひました。

久しぶりに浅間山を歩いてみるとゴミが落ちていない事に気がつきました。ボランティアの方達がきれいにしてくれているからだと思ひました。そう言えば私達も小鳥達のために小鳥の部屋を木につけたことがありました。また浅間山には、日本でもめずらしいムサシノキスゲの花が咲きます。一時その花が減ってしまい心配されましたが、ボランティアの人や市の職員さんのお陰で今では毎年美しい花をつけるようになりました。

1970年に都立浅間山公園として開園されそれ以来、ずっとこの山は私達を見守り続けてくれています。私はこの浅間山、府中が大好きです。私はこの自然豊かな環境のお陰で、文を書くこと、詩を書くことが好きになりました。この府中で、この浅間山のふもとでもっと勉強し、この浅間山と一緒に成長していきたく思ひます。

府中市青少年対策浅間地区委員会主催
第40回記念作文大会 ★入選★

こんにちは、私たちは東京農工大学のどんぐりの村です。せっかくスペースをいただいたので最初に自己紹介をさせていただきます。どんぐりの村は農学部学生ゼミナール(農ゼミ)といって、学生が自主的に自分の興味のあることを学ぶ組織の一つとして活動しています。私たちは特に里山保全の農ゼミとして活動しています。みなさんご存じの通り、里山は人々が利用、手入れすることで生物多様性が保たれています。浅間山公園でも多くの動植物や絶滅危惧種、浅間山の固有種のムサシノキスゲなど多様な生態系が観察できます。私たちは主に浅間山の保全活動に参加しつつ、勉強会を開き、里山の保全や歴史、文化、植物に関する知識を共有しています。現在のメンバーは2年生が2人、4年生が2人で、みんな植物や自然が好きなメンバーがそろっています。保全活動の参加のほかには隔月のペースで勉強会と散策を交互にみんなで行っています。勉強会のテーマはさまざま、樹木同定の仕方やいろいろなどんぐりについて、浅間山についてなど担当者の興味のあるものをほかのメンバーに共有する形で行っています。この文章を書いている私は植物などに関する知識はまだ全然ないので、毎回新鮮なことからでみんなの発表を楽しんでいます。大学に入学してから2年ほどたちますが名前や特徴が全然覚えられていません(笑)。自然保護会のみなさんは植物などに詳しい方が多いので本当に尊敬します。散策は、メンバーが行きたいところを募ってさまざまな場所に行っています。最近では新宿御苑や野川公園にどんな植物があるのか見に行きました。普段歩いてゆったりと見て回る機会はなかなか取れないので毎回とても楽しいです。

私たちは農工大の学園祭にも展示を出して普段の活動を紹介しています。学園祭に行ったことがある方も多いかもかもしれませんが、農工大の学園祭は毎年11月中旬に農学部のある府中キャンパスで行われ

ています。学園祭では活動の紹介のほかに、メインではいろいろなどんぐりの紹介を行っています。実物のどんぐりをそのどんぐりの種類の説明とともに展示しています。さらに、いろいろなどんぐりを使った手作りのキーホルダーやアクセサリーの販売も行っています。みなさんもぜひ農工大の学園祭に遊びに来てください。

ここから浅間山での活動についてお話できればと思います。私たちは保護会さんの定例の保全活動や浅間山を考える会にも出席させていただいていますが、私個人としましてはどのように保全していくのかという具体的なところは全く知らなかったので毎回非常に勉強になっております。また、保全には保護会さんのほかにもたくさんの方が関わっていて浅間山がいかに貴重な環境だということを身にもって感じています。また、5月にはキスゲフェスティバルにも参加させていただきました。2年生である私は、去年が中止で今年が初めての参加でした。ムサシノキスゲは例年より咲いていなかったようですが、地域の方がたくさん訪れていてとてもにぎわっていたのが印象的です。山田会長がされていたガイドウォークも、山田会長の豊富な知識を聞きながら浅間山を散策できて参加者のみなさんとても楽しそうな様子でした。浅間山は定例活動で訪れるたびに少しずつ表情を変えて、季節を感じることもありそれを感じるのも活動の楽しみになっています。これからも浅間山での保全にご協力できればと思います。

終わりに、このような拙い文章を最後までお読みいただきありがとうございます。また、このような文章を書く機会をいただきありがとうございます。これからも自然保護会さんの保全活動のお手伝いに参加していけたらと考えておりますので、ご一緒するときはよろしくお願いいたします。

来園者の声

今回、富士見百景で休憩されている方々に浅間山についてお話を伺いました。顔なじみの方、また初めてお話をする方にも気楽に応じていただきました。主に、浅間山に来るようになった動機、浅間山の印象、問題点などを伺いました。

その一部を紹介いたします。

府中市新町 70代の女性

浅間山に足を向けるようになったのは、数年前、転んで怪我をして、腰から膝にかけ痛みが残ってしまいました。何もしないでいると悪化するだけで、歩けなくなってしまいそうで、思いきって浅間山でリハビリをはじめました。

始めた当初は、ストックを手に痛みをこらえながらゆっくり平坦な道を選び歩いていました。痛みは消えませんでした。次第に楽になり階段や坂道に挑戦。徐々に自信が付きストックなしで歩くようになりました。少し余裕ができ、歩く時間や、距離を伸ばし、周囲の景色を見ながら、樹木の中を散策するのが楽しくなりました。その楽しみを増幅してくれたのは、行き合う人たちでした。

顔なじみになるとまず挨拶から始まり、立ち止まって会話をするようになりました。大勢の人と知り合いになり、いろいろな方から草花や樹木のこと鳥や



虫のことを教えてもらい浅間山の自然の素晴らしさを知ることができました。さらに保育所の子供たちとも話すようになり、私自身も日増しに元気になって、今ではリハビリではなく散策を楽しむようになりました。

「浅間山万歳です」

小金井市の初老のご夫婦

この界限で手つかずの自然が残っている山は浅間山しかなく、とても気に入っている。四季折々いろいろな姿を見せてくれ、林の中の草花が素晴らしく、適当に起伏があり心身ともに健康維持に最適だと、週2～3回訪れている。

保育所の子供たち



いくつもの幼稚園や保育所の子供たちが毎日来ています。子供たちが自然の中で季節の移ろいや生き物たちの命の営みを感じ、のびのびと育てたいと保母さんたちは異口同音に話してくれました。子供たちは大人になっても記憶に残っていることでしょう。

公園の問題点

問題点については、リハビリや年配の方は、急な坂道は滑りそうで怖い、階段の段差の高いところ、階段の幅の狭いところなど、大雨で水たまりのできた園路などの補修をしてほしいとのことでした。

浅間山自然保護会に入会して

浅間山自然保護会 澤木美晴

70歳で隠居生活にはいり、時間・ストレスに解き放され、いまは自分の健康のみに気を遣う身分になった。それには散歩が一番である。我が家からとても近い浅間山が私の散歩コースになっている。散歩コースがいつも綺麗になっていて、とても歩き易くなっている。一人の男性が草を刈っているからだとかかり、お互いに挨拶するようになった。この方は浅間山自然保護会の山田会長だと知った。

浅間山の話を知っていると、浅間山をとっても愛しているのが伝わってきた。

何度かお話を聞いているうちに、月2回草刈りをやっていると聞きし、体力には自信がないが、いつも綺麗にさせていただき、申し訳ない気持ちもあり、参加することになりました。するとメンバーの方々がとてもフランクで、木・草・花の説明をしてくださり、浅間山散策の楽しみが増えるようになりました。でもなにせ私は後期高齢者、三歩歩くとすぐ忘れる。何度も繰り返し質問するが、嫌な顔ひとつせず答えてくださり、とてもありがたかったです。そこで提案です。園内の木・草・花の案内板がもう少し多いと嬉しい限りです。



そうすれば一人でも案内板を見ながら楽しく散歩が出来ると思います。

又新型コロナが、流行っている時期なので難しいかもしれないが、浅間山現地で説明会を開いてほしい。是非お願いします。

特にムサシノキスゲ、キンラン、ギンラン等が芽生える4月、5月ごろが一番好きである。木の若葉、草花が芽生える時期、心・体も休まる。紅葉の秋も素敵です。

富士山、浅間神社にお参りし気持ちも新たにになります。最初は我が夫婦での散歩、次は子供を連れての散歩、また次は孫を同伴してのウォーキングを楽しみました。今は、自分の健康のために一人で散策を楽しんでいます。何十年もの長い期間利用させていただきありがとうございました。これからも末永くお付き合いください。

ボランティア 会員募集

都立浅間山公園の自然環境保護に興味のある方を募集しております。

〈活動内容〉

- 毎月2回の定例作業（第2土曜日と第4日曜日午前9時～11時）
植物の保護・育成のための草刈り、園路の整備や清掃など軽作業
- 近隣の小学校、中学校の学習補助、その他団体主催のイベントに参加
- 会員研修会、会員相互の親睦を兼ねた研修旅行

興味のある方、入会を希望される方は、浅間山自然保護会 会長 山田義夫までご連絡ください。 Tel 090-5769-0404

令和4年度事業報告

令和5年度事業計画

月	内 容	月	内 容
4	第40回定期総会（4/24） 市民桜まつり出展 浅間神社例大祭 キスゲフェスティバル（4/30）	4	第41回定期総会（4/16） 浅間神社例大祭 会員研修会 キスゲフェスティバル（4/29・4/30）
5	キスゲフェスティバル （5/1・5/7・5/8）	5	キスゲフェスティバル（5/6・5/7） 浅間山保護活動 若松小 浅間山保護活動 浅間中
6	若松小3年生学習支援（教室）		
7	若松小3年生学習支援 会員研修会（西武蔵野・パートナーズ）	6	ヤマユリ鑑賞会 若松小3年生学習支援 府中環境まつり出展
8	樹名板制作（2回） 市民活動センタープラッツ入会	7	会員研修会（作業の安全対策）
9	樹名板制作（2回）	8	植物観察会（レンゲショウマ）
10	浅間山保護活動 若松小（76名） 浅間山保護活動 浅間中（140名）	9	
11	府中市民協働まつり出展 森キッズクラフト in 浅間山協力 ダイヤモンド富士案内 樹名板設置	10	浅間山保護活動 若松小 浅間山保護活動 浅間中
12	会員研修会実施（講師大石氏） 「市民活動入門講座」支援	11	府中市民協働まつり出展 若松小3年生学習支援 ダイヤモンド富士案内
1	初日の出遙拝 ダイヤモンド富士案内	12	会員親睦会
2	創立40周年記念式典	1	初日の出遙拝 ダイヤモンド富士案内
3	会報「きすげ」41号発行 市民桜まつり出展（雨天のため中止）	2	
		3	会報「きすげ」42号発行

- 定例作業 毎月2回（第2土曜日・第4日曜日）（8月は休み）
- 役員会議 毎月第2火曜日

ご協力ありがとうございます

ご 寄 付 者		会 費 協 力 団 体	
若松屋様	小藤東洋様	武蔵野学園様	むらさき会様
高綱ミツイ様	加藤洋子様	浅間町3丁目自治会様	山吹会様
田中淑雄様		つくし自治会様	

浅間山自然保護会会則

第1章 総則

第1条 名称

この会は、浅間山自然保護会（以下会という）と称する。

第2条 事務局

この会の事務局は会長宅に置く。

第3条 目的

この会は、浅間山の自然環境を保全して、生物の保護・育成及び史跡を保存することを目的とする。

第4条 事業

この会は、目的を達成するため次の事業を行う。

- 1 浅間山の自然環境の保全
- 2 全山の清掃活動
- 3 生物の保護・育成
- 4 監視
- 5 会報の発行
- 6 地域への貢献

第5条 組織

この会は、会の目的に賛同する者をもって組織し、正会員、団体会員、賛助会員で構成する。

第2章 会員及び年会費

第6条 正会員

正会員は、会の運営に協力して、すべての事業に参加、会の目的達成に努力しなければならない。

第7条 団体会員

団体会員とは、会の目的に賛同し、会の事業運営を側面から支援する各種団体をいう。

第8条 賛助会員

賛助会員とは、会の目的に賛同し、側面から支援する個人及び各種団体をいう。

第9条 年会費

1 正会員は1口500円、賛助会員は1口200円とする。

2 団体会員は、団体の規模により任意とする。

第3章 運営及び役員

第10条 機関

この会は、次の機関を置き会の意思決定を行う。

- 1 総会
- 2 役員会議
- 3 全体会議

第11条 役員

この会に次の役員を置く。

会長1名、副会長3名、総務、会計、事業部長各1名、監査役2名、相談役・顧問若干名。

第12条 役員の任期

この会の役員の任期は2年とする。

第13条 定期総会

- 1 定期総会は、正会員及び団体会員の代表者を以て構成し、年1回4月に開催する。
- 2 定期総会は、会の最高決議機関として役員の選出、事業方針、予算その他重要事項を審議する。
- 3 定期総会は、構成員の2分の1以上の出席で成立し、議決は出席者の過半数で決定する。

第14条 臨時総会

臨時総会は、役員の要請に基づき随時開催できる。

第15条 役員会議

- 1 役員会議は、会長、副会長、会計、会員の代表で構成し月1回開催する。
- 2 定期総会の定めに従い、浅間山の整備及び会の運営の具体的施策を検討する。
- 3 全体会議は役員会議の要請に基づき重要案件を審議する。

第16条 施行

この会則は、平成30年4月21日改訂施行する。

浅間山自然保護会会員

令和5年3月31日現在

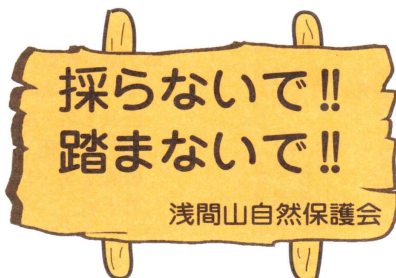
氏名	住所	氏名	住所	氏名	住所	氏名	住所
秋林奈津子	新町	小藤東洋	浅間町	中川君枝	府中町	丸本智運	府中町
安齋茂	浅間町	小森由香	新町	永井佳久	府中町	丸本和江	府中町
岡庭敏夫	若松町	小宅正市郎	若松町	中嶋陽一郎	小柳町	村杉敏治	幸町
小野要次郎	緑町	坂田美世子	小金井市	永山伸	新町	村山隆久	浅間町
加藤芳夫	浅間町	佐々木さゆり	晴見町	日並洋一	小金井市	山中由里子	宮町
加納忠幸	幸町	佐藤重秋	新町	平井英彦	小金井市	山田幹雄	浅間町
加納伸子	幸町	佐藤眞澄	緑町	堀中洋一	浅間町	山田義夫	浅間町
上垣内正子	若松町	澤木美晴	若松町	本田裕昭	白糸台	山本肇	若松町
神田邦雄	浅間町	杉浦初恵	天神町	米田勢子	若松町	横山永望	浅間町
神田喜美子	浅間町	住吉晴美	若松町	前川浩子	若松町	吉村千恵	若松町
菊池克彦	紅葉丘	千年原聡	天神町	前原義彦	清水が丘		
後藤幸子	浅間町	土橋重政	新町	丸田のぶ子	若松町		

会報発行責任者
浅間山自然保護会会長
山田義夫
090-5769-0404



ツリガネニンジン

浅間山 花シリーズ 18



浅間山の稀少植物



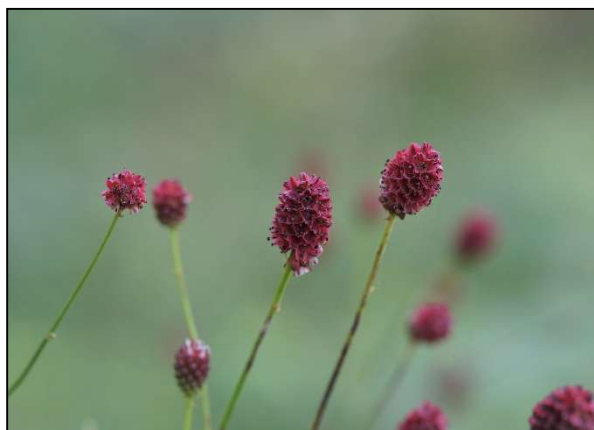
アキノタムラソウ



リンドウ



ジュウニヒトエ



ワレモコウ



ヤブレガサ